

## 日中教育フォーラム

大竹 直志

(学校経営コース1年)

北京師範大学珠海分校での教育フォーラムでは、院生同士による研究発表という形で交流が行われた。新潟大学教職大学院からは16名が4つの分科会に分かれて報告を行った。

私からは、「同僚性を高めるための小学校におけるローテーション道徳の取組」をテーマとして発表した。私が課題研究としているローテーション道徳についてだけでなく、日本の小学校における学級担任制のメリットとデメリット、そして日本の道徳授業の現状と課題についても伝えた。発表後、中国の現職教員から、「日本ではどのような道徳授業が行われているのか。」という質問があった。私から「物語など読み物教材だけでなく、人物の生き方を取り扱ったり、実際に社会で起こっている現代的な課題についても取り上げたりしている。」と答えたところ、「物語などは中国でも取り上げるが、実際に起こっていることは取り上げない。」というコメントがあった。中国の教員にとっては、道徳授業についての内容や指導法、教材等にニーズがありそうである。今後伝える機会があれば、日本の道徳科の授業の具体例をいくつか紹介してみたい。

私が参加した分科会での珠海分校の院生の発表では「対話」をテーマにしたものが多かった。日本でも盛んに話題になっている「主体的・対話的で深い学び」とも重なるところであった。また、珠海分校の院生や中国の現職教員からは、日本の特別支援教育についての発表についてたくさんの質問があった。日本同様特別支援教育に対するニーズが高い印象を受けた。

全体としては、珠海分校の院生の報告は理論研究、新大教職大学院院生は実践研究がベースであった。珠海分校の院生の発表の、先行研究や客観的なデータ分析を基に丁寧に理論を構成している点は、私たちも大いに参考にすべきであると感じた。また、主張が明確で、かつエネルギッシュなプレゼンの仕方も印象に残るものであった。

この日中の院生での交流では、互いの研究の発表だけでなく、それを通して自国の教育制度や教育環境のよさや課題についてあらためて見直す貴重な機会ともなったのではないかと感じた。